

「建築生産プロセス改革」に挑む

新日鉄住金エンジニアリング(社長・高橋誠氏)の建築・鋼構造事業部は、昨年11月に大幅な組織改正を実施。『建築生産プロセスの改革』への挑戦を軸に建築事業再生に向けて大きく舵を切った。事業部長である竹内貴司執行役員のインタビューを皮切りに技術戦略、営業戦略を紹介する。(村上 倫)

「昨年行った組織改革、技術開発、設計部隊の狙いをお聞きした。をそれぞれ統合し、組織の壁を排除して技術や営業のシナジーを追求して

「当事業部は大きく建築事業と鋼構造事業で構成されるが、建築事業はネコンを志向する主力の08年のリーマン・ショック以降、規模・収益ともに低迷していた。そこで昨年、建築事業の再生に向け『建築事業分野再生プラン』を策定。その実現に向け大幅な組織改正を行った。具体的には建築営業部、鋼構造営業部、設計技術部、プロジェクト部を新設し、従来の商品別のミニ事業部制から機能別組織とした」

「新たな組織ではミニ事業部に所属していた営業」

竹内 貴司執行役員に聞く



当社は『スタンパッケージR』を展開している。これに徹底的に標準化を織り込んだ総合建築技術融合させ、一体としてマーケティングや技術開発を行う。従来のシステム建築は2千平方メートル以下の平屋の中小案件中心だったが、総合建築の分野である3〜4万平方メートルまで広げる。これらを『新システム建築分野』

「新システム建築」で標準化追求

様の作り込み』を志向してきたが、需要低迷と競争激化により収益をあげることが非常に難しいビジネスモデルとなった。そこで我々の強みや原点を再検証し、事業の再構築を図った」

「当社の強みは鉄鋼メーカーを出自とするエンジニアリング企業として、鉄を熟知した鉄骨造における構造技術力とフ

「最大のポイントは標準化の徹底追求だ。従来、総合建築分野ではゼネコンとして『一品」

“五輪後、視野に強靱な事業体質構築

『工法の標準化』の三つだ。これらを織り込むことで物流施設では最大10%の躯体数量削減のめどが立ちつつある。また、『スタンパッケージR』はこれらを織り込むと共に新製品の投入も行い商品力を強化する。さらに、設計面では『BIM』(ビルディング・インフォメーション・モデリング)を中心としたIT化を加速させていく」

「新システム建築分野のターゲットを大型物流施設と生産施設に絞り込み、この分野の顧客をさらに細かく分析して設計・施工での受注を基本に営業を展開している。地域は5地域を重点対象エリアと位置付けたほか、スタンパッケージの施工店会である『SB会』の会員230社と共にこの分野に取り組み、情報共有と共同営業を強化する。そのためには営業支援ツールを拡充し、設計提案や見積対応の精度とスピードを高めていく」